

予備試験

---

令和6年予備試験  
論文式試験分析会  
刑法・刑事訴訟法 講義ノート

---

れっく **LEC** 東京リーガルマインド



0 001212 249256

LL24925



☆ 占有の有無 (存否)

<Aの占有> 問題類型：[所有者の意思に基づかない現実的握持の離脱]

	積極事情	消極事情
財物の形状・状態		<ul style="list-style-type: none"> <li>縦横の長さがそれぞれ約10センチメートルのコインケース</li> </ul>
時間的・場所的関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>落としてから約1分後</li> <li>約100メートルの地点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交差点を右折し、付近の建物により被害者の姿は見えなくなった</li> </ul>
現場の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>人通りは少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不特定多数の者が往来する路上</li> </ul>
被害者の認識・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>約20メートル戻れば現場の見通し可</li> <li>勤務先からX駅までの道中で落としたのではないかと考え、探しながら戻った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場との間に建物があり相互に見通し不可</li> <li>約10分間落としたことに気付かなかった</li> </ul>

<Bの占有> 問題類型：[所有者の意思に基づく現実的握持の離脱]

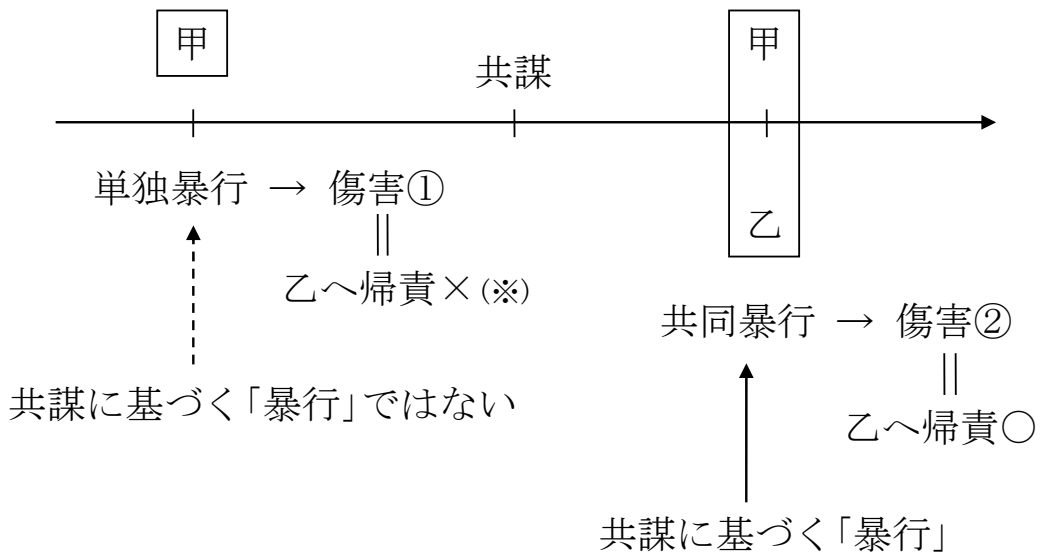
	積極事情	消極事情
財物の形状・状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>新品に近い状態の自転車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無施錠</li> </ul>
時間的・場所的関係		<ul style="list-style-type: none"> <li>駐輪から約35分後</li> <li>約500メートル離れたX駅構内</li> </ul>
現場の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実上、付近店舗利用客の駐輪場として使用されていた歩道</li> <li>ガードレールに沿って3台の自転車が駐輪されていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗専用の自転車置場ではない</li> </ul>
被害者の認識・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒歩でX駅構内の書店に立ち寄った後、約1時間45分後に戻った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施錠を失念</li> </ul>

テープコード

--	--	--

# ☆ 承継的共同正犯

[傷害罪]



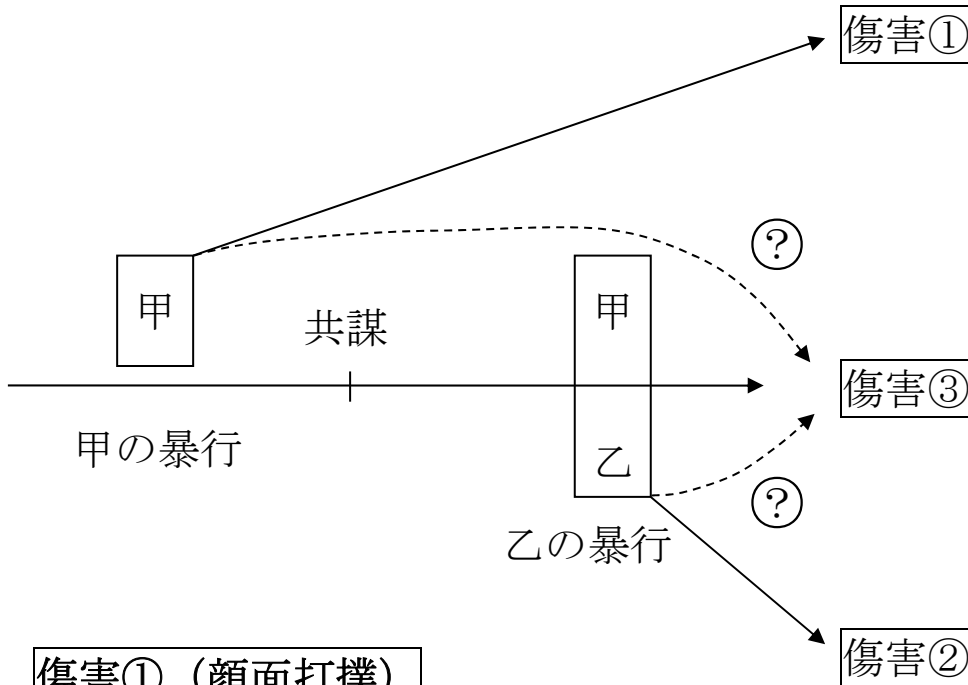
※ 共謀加担前に甲が既に生じさせていた傷害結果

⇒ 乙の共謀及びそれに基づく行為が因果関係を有することはない

テーブルコード

--	--	--

## ☆ 傷害結果の帰責



## 傷害①（顔面打撲）

- 〔 甲：帰責 ○
- 〔 乙：承継的共同正犯：否定 ⇒ 帰責 ×

## 傷害②（頭部打撲）

- 〔 甲：共謀共同正犯：肯定 ⇒ 帰責 ○
- 〔 乙：帰責 ○

## 傷害③（肋骨骨折）

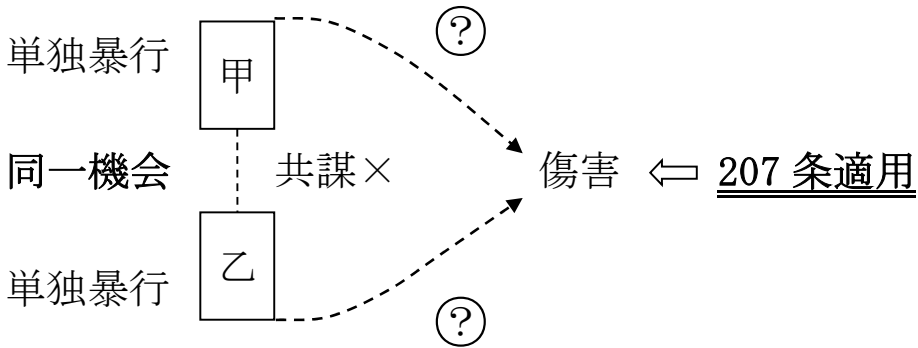
- 〔 甲：帰責 ○
  - 〔 乙：承継的共同正犯：否定
- ⇒ 同時傷害の特例（207条）適用：肯定 or 否定

テーブルコード

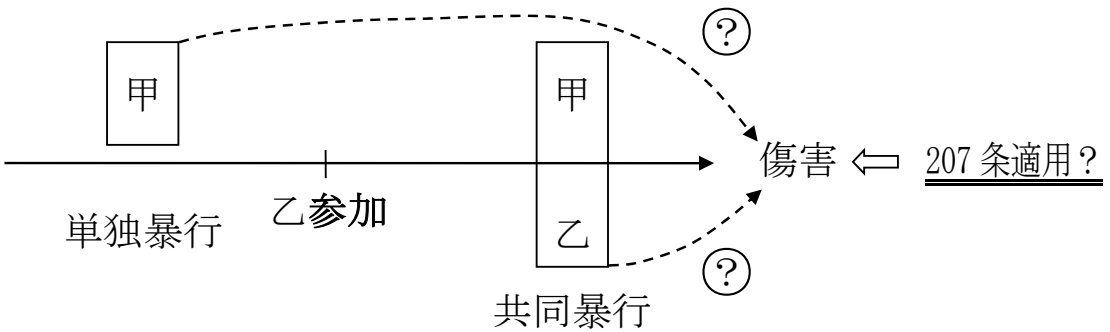
--	--	--

# ☆ 同時傷害の特例（207条）の適用

## 【同時犯の場合】



## 【共謀成立前後の暴行と傷害の因果関係不明の場合】



否定説：甲には傷害罪が成立するので不合理は生じない

肯定説：「傷害を生じさせた者を知ることができないとき」に当たる

テーブルコード

--	--	--

☆ 同種前科・類似事実による犯罪立証

【悪性格の立証（二重の推認過程）】

[争点] 被告人と犯人の同一性（犯人性）

推認 × 「合理性に乏しい推論」

[要証事実] 同種犯罪を行う犯罪性向（悪性格）

推認 × 「実証的根拠に乏しい人格評価」

[証拠] 同種前科・類似事実

【顕著な特徴を有する類似事実の立証】

[争点] 被告人と犯人の同一性（犯人性）

推認 ○ 下記事実それ自体で合理的に推認させる

[要証事実] 顕著な特徴を有し、相当程度類似する犯罪事実

証明

[証拠] 同種前科・類似事実

テーブルコード

--	--	--

【犯罪の主観的要素の立証】

[争点] 本件犯行時の被告人の認識（故意）

推認



※ 犯罪の客観的要素（犯人性を含む）が他の証拠によって認められる場合

[要証事実] 前科（同種）犯行時の被告人の認識

証明

[証拠] 同種前科・類似事実

【間接事実としての「意図・動機」の立証】

[争点] 犯人性／故意

推認

[要証事実] 犯行意図・動機の存在

二重の推認過程

推認



悪性格の立証と同様の立証構造

[証拠] 同種前科・類似事実

テーブルコード

--	--	--









れっく **LEC** 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド

(C) 2024 TOKYO LEGAL MIND K. K. , Printed in Japan

無断複製・無断転載等を禁じます。

LL24925